

《小学校高学年の部》

「笑顔になろう、笑顔にしよう」

有田市立宮原小学校 5年

中山 なかやま 結夢 ゆめ さん

「おばあちゃんのうれしい事って何。」

夏休み、祖母の家でいとこと一緒に過ごすことが多かった私が、祖母に聞いてみた言葉だ。

なぜ、私が祖母のうれしい事を聞きたくなくなったかというのと、いとこの行動とその時の祖母の様子が気になったからだ。いとこの歩夢は、とてもかわいらしい。それだけでなく、とてもやさしいのだ。おやつを食べる時も必ず私や祖母に「これ食べる。」と聞いて、自分の分を少し分けてくれる。みんな自分の分があるにもかかわらず分けてあげようと聞いてくるのだ。その時祖母の目はにっこり細くなっていく。

「ありがとう、歩夢。」

と祖母。また歩夢は、お昼ご飯を食べる時も、ちょっと私がおかしてあげても、たったそれだけのことで「ありがとう。」と言うのだ。「いちいちありがとうなんて言わなくてもいいのに。」私はずっと思っていた。

「歩夢はやさしいね。みんなに笑顔をくれるね。ばあちゃんは、みんなから『ありがとう』『おおきこ』と言われる時が一番うれしいよ。」

私はこの祖母の言葉にドキッとした。祖母の家でお昼ご飯を食べることが当たり前になりすぎて、私は感謝の気持ち忘れていた。それにこの頃ちよつと口ごたえや反こうをしたこともある。歩夢ばかりという思いから母に、

「歩夢はやさしいよ。でも、私だって人のためにお便りボランティアとか歌キッズカフェとかいろんな活動してるよ。歩夢なんて。」

母はゆつくりと言った。

「人を笑顔にすることもボランティアじゃないかな。」

私ははっとした。無償で人のために活動することは立派なボランティアかもしれない。でも、もつと大切なボランティアの心に気付いた時、私は言った。心からの「ありがとう。」